

一般財団法人
全国大学実務教育協会

会報

CONTENTS

協会の動き	02
実務教育の現場から	07
協会からのお知らせ	08

「大学実務家教員養成講座」がスタートします

 **全国大学実務教育協会**
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル二階
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633
E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp URL:<http://www.jaucb.gr.jp>



May 2019
第**21**号

1 「大学実務家教員養成講座」がスタートします

高等教育は、また新たな試練の時を迎えています。18歳人口は再び減少に転じています。この度の減少は、少子化が解決される見通しが全くないことから、深刻な影響を日本社会全体に、とくに高等教育にもたらすものと考えられます。

また、2020年度には、大学入試の改革も実施されます。高等教育はこの対応にも取り組まなくてはなりません。とくに、現行の制度で実施される今年度の大学入試は、大きな混乱が起こるのではないかの予測も語られているところです。

さらに2018年11月26日中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が答申されました。内容は、多岐にわたりますが多様性・学修者本位・質保証がキーワードになっているのではないかと考えます。

なかでも、多様性は従来からの学生・学修方法だけでなく、教員にも多様性が求められ、いわゆる“実務家教員”が大きく取り上げられています。現状の、大学改革のさまざまなうねりのなかで、教育界以外でキャリアをつまれた“実務家教員”への注目が一層たかまっているところではあります。

この“実務家教員”が、高等教育無償化の条件としても取り上げられたことにより、今後ますます増加すると考えられます。このことへの対応も緊急を要するところではあります。

そこで、この度本協会では、“実務家教員”増加への対応の一つとして、3年間をかけて準備を進めてきました「大学実務家教員養成講座」を今年度開催することとなりました。本協会が行ったアンケート調査結果等によると、“実務家教員”の実務経験は、学生にとって大いに参考になるものの、教育経験が不足で、学問体系として理論的に講義内容を構築する訓練も受けていないので、貴重な体験がなかなか伝わりにくいのではないかと採用者側からの指摘も見られました。

一方、“実務家教員”からは今の大学の研究評価システムでは、なかなか正当な評価が受けられない。そのことが学内での昇進等にも影響しているのではないかと、との意見も出されていました。

そこで、本協会はすでに過去5回にわたり実施してきた「能動的学修の教員研修リーダー講座」をつうじて、現場教員に提供してきた実践的な学びの場の経験とノウハウを生かして、高等教育に携わる教育者としての自覚と準備を促し、授業や教育の改善につながる教育力を身につけるとともに研究力やマネジメント力を兼ね備えた大学人の育成を目指した研修講座プログラムを開発いたしました。

本講座のプログラムは、大きく2段階の構成になっています。第1弾は事前に配付するテキストを精読いただき、各項目に設定されている理解促進テストに回答をお願いします。

その後、第2段階としての集合研修に参加していただけます。この方法は、本協会がすでに実施している「能動的学修の教員研修リーダー講座」で採用し実績を上げていることを参考に、本講座プログラムにも取り入れることといたしました。

集合研修は、【A領域】<10月19日(土)・20日(日)>と【B領域】<12月7日(土)・8日(日)>それぞれ2日間の合計4日間行われます。

【A領域】の2日間では、大学人としての基礎知識を身につけるとともに、大学の組織強化に寄与する力、大学教員の役割を理解し、求められる教育・研究力を確認することを目標にしています。

【B領域】の2日間では、大学の授業の基礎知識を身につけ、実務経験を活かす授業実践力を磨くとともに、大学に求められる人材育成や多様化する学生の変化をとらえ、教職員と協働して大学を変革する力を身につけることを目標にしています。

このプログラムを経験豊富な講師陣のもと、少数精鋭(定員20名)で、グループ活動を中心にして研修します。また、研修日程(後掲参照)でわかるように講義だけでなく、小自由討議・実践事例研究・事例発表・ワークショップなど能動的学修もふんだんに取り入れた内容になっています。参加者が自ら積極的に講座に参加することで能動的学修の基礎も理解が可能となります。参加者同士の経験談や実践事例の交換の場がそれぞれの方の課題解決にも役立つことを期待しています。

貴校に採用予定の方、採用3年以内の教員の方に積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

A領域 集合研修 10月19日(土)(10:00~17:30)~10月20日(日)(10:00~17:30)		
1 目 目	◇オリエンテーション ◇テキストの理解促進テスト解答と解説 ◇教員力と自己診断の確認 <PART1>大学とは何か <PART2>高等教育政策と各大学の課題	<PART3>大学の組織力強化 ◇小自由討議 <PART4>大学教員の基本的な役割 ◇実践事例研究
2 目 目	◇事例発表 <PART5>次世代を担う教員力	<PART6>研究活動と成果のまとめ方 ◇個人の研究推進の方向性(演習) ◇ワークショップ「大学人として働くということ」(仮) ◇教員力と自己診断(前半)結果と今後の課題

B領域 集合研修 12月07日(土)(10:00~17:30)~12月08日(日)(10:00~17:30)		
1 目 目	<ul style="list-style-type: none"> ◇オリエンテーション ◇テキストの理解促進テスト解答と解説 ◇教員力と自己診断の確認 <PART7>大学授業の基礎知識 	<ul style="list-style-type: none"> ◇小自由討議 <PART8>教員の授業力と授業評価 <PART9>授業デザインとシラバス作成 ◇授業プログラム作成演習
2 目 目	<ul style="list-style-type: none"> ◇実践事例研究 授業プログラム作成演習 発表 <PART10>授業運営の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> <PART11>人材養成と開発能力の具体化 <PART12>多様化する学生と学修支援者 ◇ワークショップ「学生と実務家教員の未来を考える」 ◇教員力と自己診断と今後の課題 ◇交流会

2 産業界団体関係者と協会との意見交換会(第8回・第9回の意見交換のまとめ)

本協会は、産業界の有識者との意見交換会を平成30年度に2回(5月17日、10月12日)開催し、今年度は企業、大学それぞれが重視する主要能力とその育成について、情報提供して意見交換をしました。

第8回(5月17日)は、「企業、大学それぞれが重視する主要能力とその育成について」というテーマで、小暮恭一エム・ソフトCEO、臼井啓能東京経営者協会部長、坂田甲一トッパン・フォームズ社長の3名が事例を発表しました。

小暮氏は、玉川大学経営学部の経営学講義に講師として参加した体験を通して、「大学での学びを企業で生かすためには、実社会の疑似体験を通して専門能力と実務の関連や実社会との接点を実感する必要がある」と指摘しました。坂田氏は、「常に成長し前進し続ける」「自分を磨き、存在感を出す」といった能力が、デジタルソリューションという先端業種では不可欠と指摘しました。臼井氏は、経団連が443社を対象に行った「高等教育に関するアンケート」の解説を行ない、年を追って厳しくなる産業界の大学教育への評価を示し、産業界が、ハイレベルな実践力を新入社員に求めていることが示されました。これに加えて、産業界から、「産と学を近づける役割の強化」「学生をお客様扱いせず個性をぶつけ合う教育」などの厳しいリクエストも示されました。



また第9回(10月12日)は、大学側から「大学が重視する主要能力とその育成について」というテーマでの2つの事例が報告されました。

まず大手前短期大学キャリアサポート室坂手喜彦室長が、「就職に強い短大」を標榜する同校の緻密で工夫に富んだ就職支援システムについて紹介し、最後に「産学接続に必要な能力」として、「自己認知能力(メタ認知)」、「自己肯定感・自己効力感」「コミュニケーション能力」「意味づけ力」「地頭力(知的基礎力)」の5つの能力を指摘しました。また山梨県立大学の清水一彦理事長・学長は、「各大学には、それぞれの伝統があり、目標、目的がある。ここから育てるべき能力を引き出さなければいけない」と語り、全学・学部・学科など各段階に対する学士力の緻密な設計について解説し、学士基盤力を、創造力・表現力、実践力・問題解決力、人間関係形成力など6つの能力で明示し、これらを学生による自己評価によって学修成果を数値化する評価システムを紹介しました。両校の工夫と努力には、産業界代表者からも評価の声が多く聞かれました。

「本年度に入って、ようやく産業界の方々と忌憚のない意見を交わし、率直なお話ができるようになり、大変楽しみにしている」と森脇道子会長が語ったように、高等教育を取り巻く環境が厳しさを増す中、大学教育、大学実務教育の質保証のために、産業界からの直言は、何にも増して貴重であることが確認されました。

3 ネットワーク支援事業の推進

「地域の卒業生等社会人の就業力向上支援」推進チーム

常磐大学 菅田浩一郎

近年、大学卒業後3年以内の離職率は3割近くにのぼるなどと言われていいます。個別ケースをみれば、キャリアアップのための前向きな離職もあるでしょう。しかし、そうではない離職が多いというのが現状のようです。特に人口減少が進み、地方創成が叫ばれる昨今、地域における若手社会人は貴重な人財です。元気に仕事をしてもらえるようにするために、大学・短大として何が出来るかが問われています。そこで「地域の卒業生等社会人の就業力向上支援」推進チームでは、2016年春より、日本の各地域における6つの大学・短大において、社会人教育を通じた地域貢献の一環として、地域の若手社会人の内発的動機付けを高めるための様々な取り組みを試行錯誤しております。

今年で4年目を迎える当チームは愛知学泉短期大学、金城大学短期大学部、中国短期大学、常磐大学、常葉大学、新潟青陵大学短期大学部の6大学・短大より構成され、キャリア教育コーディネータの沼田翔二郎氏にも参加してもらっています。各校の置かれている地域の事情はさまざまであり、地域に合わせた形での事業として、各々特色あるセミナーやイベントが開催されています。

金城大学短期大学部では、入社1・2年目の新人社員の「就業継続力」を養成することを目的とし、職場での悩みや不安の軽減、モチベーション向上を目指して半年の間隔で有料の研修を実施しています。中国短期大学ではこの活動を情報ビジネス学科の活動の一環として位置づけ、夏と秋に卒業生を招き、現役の学生も交えたイベントを開催しました。同学科は地域のテレビ局に番組枠を保持しており、2019年度にはこのイベントを一つの企画として放送することを試みます。常磐大学では「石の上にも3年」セミナーを開催しました。地元若手社員、ベテラン社員よりなるワールドカフェ方式のセミナーで、今年3回目は地元のホテルで開催しました。常葉大学は「同窓生とつながる!トコハ・キャリア交流会」と称するイベントを開催しました。大学祭ホームカミングデー併催行事として現役学生と卒業生が暮らし方、家庭と仕事、キャリアの目標といった内容で語り合いました。新潟青陵大学短期大学部では新図書館というインフラも活用して、社会人就業力の根本基礎である読書する習慣を学生時代のうちから身に付ける活動を展開しています。引き続き「地域の卒業生等社会人の就業力向上支援」推進チームの6大学・短大の活躍にご期待ください。



「こども音楽療育士修了者のためのBP研究会」推進チーム～「こども音楽療育士修了者のための研究会」実施報告～

宮崎国際大学 日高まり子

「こども音楽療育士修了者のための研究会」取組ネットワークにおいては、各大学及び短期大学主催の卒業生のための支援プログラムの確立を目指して、そのスタートアップの時期として、こども音楽療育の指導にあたる教員・職員を対象に研究会を去る平成31年3月21日に宮崎学園短期大学において実施しました。関東、関西、九州の大学・短大から17名が参加されました。実施内容としては、資格取得者のための研修会の事例報告、ネットワークづくりについての意見交換、情報交換会、Co-Musictherapy研究所所長の中島恵子先生によるワークショップを行いました。

平成23年度に新設された「こども音楽療育士」の教育プログラムを終え、様々な現場で取り組む修了者にとっては、その実践に様々な課題が感じられており、ステップアップのための研修会への期待が高まっています。その中において、修了者と合わせて卒業生への支援として宮崎学園短期大学の平成21年度より実施されている保育研修会の事例報告がなされました。保育現場のニーズに配慮しながら、こども音楽療育士資格取得者である参加者相互の学びの場を提供し、こども音楽療育の専門性のある教員による研修会での技術向上のための演習など継続して取り組まれた実績の高い報告でした。ネットワークづくりについての意見交換、情報交換会においては、各学校での成果とともに実習における



実習内容や実習場所、指導者の確保など現場での困り感や研修内容についての課題など多岐にわたる情報を共有することができました。また、こども音楽療育士の資質向上を図るために、今後のネットワークづくりの在り方等について積極的な協議がなされ、継続的な研修会実施の必要性について参加者から多くの意見が出されました。

中島恵子先生によるワークショップでは、参加者が息の体験を通し音でつながるオープニングワークショップから始まり、ハンドドラムなどの楽器によるワークでの音のつながりやノンバーバルコミュニケーションを通して多感覚の音や音楽の捉え方の学び、絵本の音づけなど指導者としての豊かな資質向上のための実践的スキルを高めることのできたプログラムでした。

実施された内容は充実したものとなり、参加者からは、次回の研修会への期待感も多く語られました。今後は「こども音楽療育」の実施校のネットワークを拡大させ、修了生への発展的な支援の在り方を更に模索していきたいと考えます。

4 2018年度資格認定証授与数

2018年度資格認定証授与数は9,043件で、その内訳は大学2,141件、短期大学6,902件、資格認定証授与数の総数は、629,200件となりました。

2018年度の資格認定証授与数の上位10資格は次のとおりです。

①情報処理士	1,626件	⑥上級ビジネス実務士	552件
②ビジネス実務士	1,293件	⑦上級秘書士(メディカル秘書)	430件
③秘書士	1,103件	⑧プレゼンテーション実務士	413件
④上級情報処理士	1,032件	⑨実践キャリア実務士	331件
⑤上級秘書士	625件	⑩こども音楽療育士	325件

5 2018年度会長賞授与数

優れた成績で資格を取得した学生を顕彰するための会長賞は、64校の109名に授与しました。1994年度の制度開始からの延人数は4,142名になりました。

6 2018年度実務教育優秀教員被表彰者

去る2018年11月15日(木)～12月17日(月)の期間に会員校からの推薦を受け選考した結果、「実務教育優秀教員」として、以下の6名を2019年3月31日付で表彰しました。

No.	大学名	氏名	所属	No.	大学名	氏名	所属
1	筑波学院大学	佐野 司	経営情報学部	4	京都文教短期大学	桑原 千幸	ライフデザイン学科
2	兵庫大学	立本千寿子	生涯福祉学部 こども福祉学科	5	鳥取短期大学	岩井 和由	生活学科 情報・経営専攻
3	札幌国際大学短期大学部	小林 純	総合生活キャリア学科	6	比治山大学短期大学部	西村この実	総合生活デザイン学科

※大学名、所属、職名は2019年3月31日現在です。(敬称略)

7 文部科学省の担当部署と理事・評議員との意見交換

去る2019年5月10日(金)午後1時から、文部科学省高等教育局大学振興課長の三浦和幸氏をお招きし、「高等教育政策の動向と今後の見通しについて」の演題でブランドデザイン答申を踏まえた制度改正等、学校教育法等の一部を改正する法律案の概要、大学等における修学の支援に関する法律等の概要についてご講演をいただき、理事・評議員の方々と忌憚のない意見交換が行われました。

8 2019年度新規入会校

2019年度からの新規入会校(2018年10月1日入会を含む。)は次の4校です。

No.	大学名	所在地	学 長	申請資格
1	中国学園大学	岡山県岡山市	千葉喬三	上級ビジネス実務士、ビジネス実務士 観光ビジネス実務士
2	東北女子短期大学	青森県弘前市	島内智秋	ビジネス実務士、上級ビジネス実務士 情報処理士、上級情報処理士 プレゼンテーション実務士、ウェブデザイン実務士
3	清泉女学院短期大学	長野県長野市	山内宏太郎	上級秘書士(国際秘書)、上級情報処理士
4	華頂短期大学	京都府京都市	中野正明	秘書士、ビジネス実務士 実践キャリア実務士、観光ビジネス実務士 情報処理士

9 評議員の異動及び新役員の就任について

○評議員

評議員選定委員会において退任された評議員の後任の評議員の選定が行われ下記のとおり新任の評議員が就任いたしました。

新 任		退 任	
高橋弘行 高見 茂	一般財団法人東京経営者協会 常務理事兼事務局長 京都光華女子大学・同短期大学部 学長	一郷正道 木宮岳志	前 京都光華女子大学・同短期大学部 学長 学校法人常葉大学本部 学事顧問

○新役員

評議員会において任期満了に伴う理事の改選と退任された監事の選任が行われ、下記のとおり新役員が就任いたしました。

役 職	氏 名	現 職
代表理事・会長	森脇 道子	学校法人根津育英会武蔵学園 理事・評議員
代表理事・副会長	清水 一彦	公立大学法人山梨県立大学 理事長・学長
代表理事・副会長	森 征一	慶応義塾大学 名誉教授
理 事	安藤 正人	愛知学泉短期大学 学長
理 事	諫山 正	学校法人新潟青陵学園 学事顧問
理 事	石井 茂	学校法人大阪成蹊学園 理事長・総長
理 事	上野 八郎	学校法人札幌国際大学 理事長
理 事	大宮 登	高崎経済大学 名誉教授
理 事	川嶋 太津夫	大阪大学 高等教育・入試研究開発センター長
理 事	小暮 恭一	株式会社エム・ソフト 取締役会長兼 CEO
理 事	佐々木 雄太	学校法人市邨学園 理事
理 事	城島 栄一郎	実践女子大学・同短期大学部 学長
理 事	富田 敬子	常磐大学・常磐短期大学 学長
理 事	林 忠行	京都女子大学 学長
理 事	福井 洋子	大手前短期大学 学長
理 事	村崎 正人	学校法人村崎学園 理事長
理 事	山下 恵子	学校法人宮崎学園 理事長・学長
理 事	竹田 貴文	一般財団法人全国大学実務教育協会 事務局長
監 事	加藤 晃	学校法人金城学園 学園長
監 事	木宮 岳志	学校法人常葉大学本部 学事顧問

メディア創造学科導入期教育における 課題発見とその解決をめざした学習

同志社女子大学学芸学部学部長 メディア創造学科
教授 中村信博



同志社女子大学学芸学部メディア創造学科は、2018年度にそれまでの情報メディア学科(2002年設置)からカリキュラムを大幅に改変し、学科名称を現在のものに変更した。旧名称としては16年を経過して充実期を迎えた段階での決断となった。その狙いは、多様化と複雑化が著しい社会の課題を、当事者意識をもって創造的に解決しようとする意欲と能力のある女性を育成したいとする所期の目的をより明確にすることにあった。同志社創立者新島襄の「女子教育は社会の母の母なり」、そして「世の改良者となりて働かれたし」と社会運動の女性指導者のひとりに託した言葉も意識されていた。

旧学科設置当時には存在しなかったSNSや動画サイトは、今やコミュニケーションツールとして普及し、それを欠いた日常生活など私的にも公的にも成立しない。昨今はICTに代わってAIが情報テクノロジーの象徴語として当たり前のように流通し、消費されるようになった。情報環境が激変するなか、テクノロジーの表層を知り、デバイスやソフトウェアを扱うスキルを身につけるだけでは社会の追従者とはなり得ても改良者とはなり得ない。社会の課題を発見し、その本質を洞察する能力こそが求められている。

メディア創造学科のカリキュラムは「アートとデザイン」「マスメディアとカルチャー」「エンターテインメントとビジネス」「メディアとテクノロジー」「グローバルメディア」という5つの領域を中心に編成されている。学生たちにはこれらの領域を横断的に学習することで、幅広い関心と知識とを養い、その成果を主体的にかつ有機的に連動させながら、課題の発見から改善、解決、改良にと至って欲しい。

導入期教育においては、半期に1科目ずつ配置された必修科目である「基礎演習A」「基礎演習B」「基礎演習C」を履修し、文理融合的な性格を有するこの学科で学ぶことの意義と可能性、さらには社会への責任意識が育つように配慮されている。すべてを履修し終えるには2年次春学期までを待たなければならない。順に「ドキュメンタリー制作」「紙媒体による情報伝達」「ロボットと社会」を主要なテーマとし、いずれも体系的な知識修得よりもアクティブラーニング系の科目として位置づけて、共同学習・作業によって達成される成果を最終目標にしている。

ここでは、1年次春学期に学ぶ「基礎演習A」の実際を紹介したい。最終的な目標をドキュメンタリー作品の完成としているのは、メディアの特性について発信者と受信者の両面から体験的に理解し、メディアリテラシーを高度化するためである。1学年120人を3クラスに分けて同時進行を原則とし、15回の授業は3段階によって構成されている。1)ドキュメンタリーの鑑賞、2)ドキュメンタリー制作、3)完成したドキュメンタリーの鑑賞と合評、である。

1)は実際のドキュメンタリーを視聴し、小グループでの討議、それを踏まえてクラスでのプレゼンテーションを3回繰り返す。この過程でドキュメンタリー映像を客観的に視聴し、そこに描かれた世界と内在する諸問題を発見するとどまらず、制作者の意図や工夫などについても深い分析と検討を加えることになる。

2)は、「基礎演習A」の最大の山場でもある。15分程度の映像作品を完成させなければならない。高校時代に放送部やクラブ活動などの経験によって、機材の扱いや映像編集に習熟した学生も混在するが、大半の学生にとっては未経験の作業である。機材は放送現場での使用に耐えるものが供されているが、技術教育を前提とはしない。目的を達成するために必要な準備と技術はどうすれば良いのか、学習者自身がその課題を自覚しなければならない。このような非構造的な方法を可能にしているのは、全学に開放されているメディア・サポートセンター(msc)の全面的な協力を得ているからである。mscは、本クラス受講生を対象に「撮影」と「編集」のワークショップを開催し、学生たちは必要に応じて随時常駐スタッフによる技術上の助言を受けることができる。「何をしたいのか」と考える主体性こそが重要となる。

昨年度は共通主題を「人間」とした。制作にあたっては、学生たちが魅力を感じ、その生き方、活動、悩み、希望などをだれかに伝えたいとおもう人物への実際のインタビューを義務とした。大学という新しい環境に慣れる以前に、取材のために学外に飛び出さなければならない。そのためには連絡をとり、インタビューの意図を説明し、了解と協力を得なければならない。しばしば予期しなかった困難に遭遇し、その解決に迫られる。多忙を理由に断られることもあれば、企画書や大学側の補足説明を求められることもある。すべてに対応しなければ何も始められない。取材過程で学生たちの不始末があれば学科、学部、大学当局にも責任が及び、ティーチング・アシスタント(TA)の協力も得ながら、担当教員は授業時間以外にも学生たちと連絡をとりつづけることになる。

3クラス全24グループによって完成した作品には、これらのプロセスのすべてが凝縮され、24通りの「人間」とその魅力が描かれている。春学期最終日の夕刻、学内ラーニングコモンズ・イベントエリアに全受講生、TAやオリエンテーションリーダーなどの上級生、学科教員、mscスタッフが集まってささやかな親睦会を開き、各クラスの代表的作品を鑑賞した。互いの苦勞をねぎらい、努力をたたえあったことは言うまでもない。

本学科の導入期教育においては、あえて非構造的な授業設計をおこなうことで、専門知の修得よりも主体的な学習態度の養成を目標としている。学生たちには、失敗を恐れず、むしろその貴重な経験を通して専門分野で何を学ぶ必要があるのか熟考し、それぞれの将来に備えて欲しいと願っている。

協会からのお知らせ

1 能動的学修の教員研修リーダー講座、FD実践研究会

本協会は、第6回能動的学修の教員研修リーダー講座(8/24,9/28,10/26計3回の集合研修)を開催します。

また、昨年度まで開催の能動的学修の教員研修会をリニューアルした第5回FD実践研究会(8/23)を開催します。会場は、講座、研究会ともに、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を予定しています。

詳しい内容は、<http://www.jaucb.gr.jp/recruiter/training.html> をご覧ください。

2 2019年度会員校代表者交流会

来る2019年9月9日(月)10時30分から東京ガーデンパレスにおいて、2019年度「会員校代表者交流会」を開催します。本年は「大学と実務教育の活用(仮題)」をテーマに講演と意見交換及びパネルディスカッションを行うほか、出席者による意見交換会(グループディスカッション)を予定しています。

3 2020年度新規会員校及び新規教育課程認定及び確認届の申請期限

2020年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限は、2019年7月25日(木)と2020年1月27日(月)です。本協会が発行する資格認定証の授与を受けようとする場合は、申請する「資格」ごとに所定の書類を提出し、審査を受け承認を得る必要があります。

また、ウェブデザイン実務士、プレゼンテーション実務士、こども音楽療育士、園芸療法士、観光実務士、上級を含む環境マネジメント実務士の確認届は、2019年7月25日(木)までにご提出ください。

◎到達目標を定めた資格

実践キャリア実務士
ビジネス実務系
秘書系 情報処理系
ウェブデザイン実務士
プレゼンテーション実務士
こども音楽療育士
園芸療法士
観光実務士
環境マネジメント実務系

- ・(様式②-1)資格教育課程認定申請書
 - ・(様式②-2)大学の教育理念、教育目標、3つの方針と資格の位置付、教員・施設設備の状況、教育課程編成表
 - ・(様式③)〇〇士の資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表
 - ・編成表の中の必修科目に対応する科目のシラバス(貴学の学生便覧等へ掲載のシラバスをA4判でプリント)
- ※大学独自の評価表を使用する場合は、到達目標評価表
ただし、資格により(様式4)専任教員履歴・業績調書、(様式5)施設設備調書も必要です
- ◎資格認定証の9割以上を占めています。

定めていない資格 到達目標を

生活園芸士
カウンセリング実務士
社会調査アシスタント
社会調査実務士
ボランティア実務士
国際ボランティア実務士
保育音楽療育士

- ・(様式2)教育課程認定申請書
- ・(様式3)教育課程届出表
- ・(様式3S)資格必修科目のシラバス及び選択科目の大学のシラバスの写
- ・(様式4)専任教員履歴・業績調書
- ・(様式5)施設設備調書
- ・(様式6)教育体系説明書

確認届の提出

ウェブデザイン実務士
プレゼンテーション実務士
こども音楽療育士
園芸療法士
観光実務士
環境マネジメント実務士
上級環境マネジメント実務士

- ・(様式⑫)資格教育課程編成確認届
 - ・(様式③)〇〇士の資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表
 - ・編成表の中の必修科目に対応する科目のシラバス(貴学の学生便覧等へ掲載のシラバスをA4判でプリント)
- ※大学独自の評価表を使用する場合は、到達目標評価表

<http://www.jaucb.gr.jp/university/7.html> をご確認ください。